

第2回 岡崎市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

日時	2019年7月9日(火) 10:00~12:40		
場所	岡崎市役所 西庁舎7階701号室		
議事骨子	1. 開会 2. 議題 (1) 岡崎市都市計画マスタープランの改定の主旨 (2) 都市づくりの主要課題(案) (3) 企業アンケート (4) 都市づくりの目標(案) (5) 将来都市構造について 3. 閉会		
配付資料	・次第 ・資料1 策定委員会、作業部会における委員からの意見とその対応 ・資料2 岡崎市都市計画マスタープラン改定の主旨 ・資料3 都市づくりの主要課題(案) ・資料4 ・4-1 都市計画マスタープラン 企業アンケート(市内工業系企業の方への調査) ・4-2 都市計画マスタープラン 企業アンケート(転出された企業の方への調査) ・4-3 都市計画マスタープラン 企業アンケート(市内商業系企業の方への調査) ・資料5 都市づくりの目標(案) ・資料6 将来都市構造について		
委員	13名中11名出席		
	所属	職名	氏名
■出席	■名城大学	教授	松本 幸正
	■愛知産業大学大学院	准教授	宇野 勇治
	■東海学園大学	名誉教授	宮崎 幸恵
	■岐阜工業高等専門学校	教授	鶴田 佳子
	■愛知県都市整備局都市基盤部都市計画課	課長	片山 貴視
		代理 課長補佐	伊藤 俊司
	■愛知県西三河建設事務所	企画調整監	大野 伸二
□欠席	□岡崎商工会議所	女性部会長	太田 敏子
	□岡崎農業委員会	会長	小久井 正秋
	■NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた	事務局長	天野 裕
	■NPO 法人21世紀を創る会・みかわ	専務理事	斎藤 眞澄
	■株式会社まちづくり岡崎	取締役事業統括本部長	長谷川 伸介
	■市民代表		石井 美紀
	■市民代表		片桐 政勝

1. 開会

事務局

<あいさつ>

それではお時間となりましたので、只今より第2回策定委員会を始めさせていただきます。本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。まず初めに、事務局から本日の委員会の設置につきましてご報告させていただきます。本日の会議につきましては、岡崎市都市計画マスタープラン策定委員会設置要項第5条第2項の規定に基づき、委員の半数以上が出席されていますので会議が成立致しますことをご報告させていただきます。なお、本会議につきましては、策定委員会設置要項第5条第3項の規定に基づき公開することとしておりますが、希望者がおりませんでしたので傍聴者なしとさせていただきます。会議は次第に沿って進めさせていただきます。それでは以降の議事進行につきましては松本委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

松本委員長

それでは議事進行させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

2. 議題

(1) 岡崎市都市計画マスタープラン改定の主旨

※資料説明及び質疑応答

→質疑応答なし

(2) 都市づくりの主要課題（案）

※資料説明及び質疑応答

片桐委員

主要課題4で訪日外国人について課題に挙げているが、主要課題1では、グローバル化を視野に入れ、課題1の中部国際空港の前に訪日外国人やインバウンド等についても記載してはどうか。

松本委員長

主要課題1はあくまで観光客の来訪による産業の発展について記載しており、観光振興については主要課題4を中心に記載している。しかし、課題1でも観光客の来訪手段としてのリニアや中部国際空港が表現さする必要はあるという意見か。

片桐委員

主要課題1で記載されているリニア等の交通手段の利便性向上や機能強化の対象が日本国内のみとなっているように見えるため、グローバル化を視野に入れたもっと広域的な視点での表現とするべきではないか。

松本委員長

グローバルネットワークを視野に入れた場合、訪日外国人は、観光だけでなくビジネス等による来訪も含まれる。

片桐委員

主要課題の中でネットワークという言葉を使っているため、世界を含めた広域的なネットワークについて表現できれば良い。

松本委員長

国際戦略などにもつながる重要な意見であるため、事務局で検討していただきたい。

事務局

意見を参考に検討します。

石井委員	主要課題5の課題2は、発災時に早期に事業再開できるように企業の防災意識を向上させ、発災時には企業自らが対応し早期に事業再開を図るとのことか。
事務局	防災意識の向上により、業務BCPや産業レジリエンスにおける交通ネットワーク等の連携を強化させる必要があると考えています。
石井委員	発災時には行政だけに頼らず、企業自ら事業再開を図るとのことか。早期に事業再開するために行政・企業どちらの防災意識を高めるのか。
事務局	業務等の早期の事業再開については業務BCP等企業の防災意識の向上が必要ですが、インフラ等については行政が係わるため、両者が共通の防災意識を持つことにより早期の事業再開につながると考えています。今後、分かりやすい表現となるよう検討します。
石井委員	主要課題5の課題1のソフト対策について、ハード対策のように具体的な対策の事例を記載していただきたい。
松本委員長	災害の予防として、ソフト対策の事例も具体的に記載するべきである。また、災害の予防と復旧では対策が異なるため、市外も含めた広域的な視点を取り入れながら、これらを分けて具体的に記載する必要があると思われる。
事務局	意見を参考に検討します。
宮崎委員	主要課題3の課題2について、可能であれば働く場だけでなく保育園等の子育て支援施設も居住場所と近接させるような意味合いも含めてはどうか。また、課題5については、ユニバーサルデザインといった文言を加えてはどうか。
鶴田委員	1人親世帯も多くいらっしゃるため「子育て世代の共働き」という表現は変更したほうがよいのではないかと。
鶴田委員	課題2は、課題1の一部を切り取って記載しているように見えるため不要ではないかと。
松本委員長	課題2は、職住近接と職場までのアクセス性の向上を記載していると考えられるが、事務局が追加した意図はなにか。
事務局	岡崎市は工場や商業施設が市街地内に混在しており、潜在的な働き手の確保のためにも課題に追加しています。
松本委員長	事務局の意図を汲み取ると、課題1、2について生活環境と雇用環境で分けて記載すべきだと思われる。
鶴田委員	課題2の内容が表題とつながらないため、雇用環境の内容を省き居住環境の向上を目指すという表現にしてはどうか。
松本委員長	産業地周辺への宅地の誘導や道路整備等を行う際には、雇用環境の記載は必要である。そのため、記載の順番を5番目に入れ替えてはどうか。
事務局	課題2について、意見を参考に表現を検討し、記載箇所を変更します。また、課題5についてはユニバーサルデザインといった文言を追加します。
宇野委員	主要課題4の課題1について、資料1のNO.15の意見対応で「緑」ではなく「水」としているのはなぜか。
松本委員長	全体的に「緑」の記載が少ないのではないかと。

事務局 宇野委員	<p>主要課題2の課題6に記載しています。</p> <p>表現に違和感があるため、自然環境の保全を述べてから中心市街地について記載してはどうか。</p>
事務局 松本委員長 事務局 宇野委員	<p>意見を参考に検討します。</p> <p>主要課題4の課題1について、「歴史・風土・水」の部分に緑を追加してはどうか。</p> <p>意見のとおり修正します。</p> <p>「起爆剤として、～産業都市の形成が必要です。」という文章はおかしい。QURUWA戦略を文章の冒頭ではなく後ろに入れ替えてはどうか。</p>
松本委員長 松本委員長	<p>市の想いを反映し、起爆剤という表現はそのままにする。</p> <p>主要課題2の課題6について、「中心市街地」の自然環境には農地や森林も含まれているのか。</p>
事務局 片桐委員	<p>中心市街地にある農地も含めた自然環境の保全も図るため課題に記載しています。</p> <p>課題6と表題が結びついていないと感じる。記載だけ見ると主要課題4の自然を生かした都市の活性化に含まれるのではないか。</p>
事務局	<p>将来都市構造を検討する際に、コンパクトプラスネットワークの概念を活用し郊外や山間部の地域についても集約を図るというストーリーを作ることで、都市構造をイメージしやすくなるため主要課題2で記載しています。</p>
松本委員長	<p>中心市街地だけでなく、広域的に市街化調整区域や都市計画区域外における自然環境の保全を図ることも、コンパクトでスマートな都市づくりにつながるという意味合いで記載しているのではないか。</p>
石井委員 松本委員長	<p>誰でも理解できる分かりやすい表現にしていきたい。</p> <p>専門的な用語の説明等が抜けている部分はある。全体を通して一般的に理解が得られる表現を検討していただきたい。また、都市化と自然環境の保全のバランスを図るという内容を記載することは重要であると思われる。</p>
宇野委員 事務局 松本委員長	<p>自然環境を整備するのか保全するのかによって意味合いも変わってくる。</p> <p>自然環境の保全の観点で課題に記載しています。</p> <p>自然環境を保全しつつ、中心市街地とのバランスを図る必要があるなどの表現にしてはどうか。</p>
片桐委員 鶴田委員	<p>「バランス」という表現について、他に「均衡」という言葉もよく使われる。</p> <p>課題4、6を合わせて記載することで、中心市街地は対象から外れるが市街化調整区域や都市計画区域外における居住環境の維持や自然環境の保全、それら課題解決に向けた最新技術の導入といった対応のストーリーがイメージしやすくなるのではないか。</p>
松本委員長 天野委員	<p>1つの案として検討していただきたい。</p> <p>都市化と自然環境の保全のバランスについて、自然環境の保全は中心市街地とは関係なく施策が行われており、中心市街地とのつながりが希薄となっている現状があ</p>

る。そのため、地産地消などの理念を活用し中心市街地と郊外のつながりを築くことが、都市化と自然環境の保全のバランスをとることにつながると思われる。

松本委員長 重要な考え方である。どのように表現できるのか。

天野委員 地産地消を例に挙げると、郊外で生産したものを中心市街地で消費することでお互いに支えあう関係性を築くことができると思われる。

松本委員長 お互いに支えあうという言葉を使うことで、両方向から関係性を築くことができると思われる。

事務局 意見を参考に検討します。

松本委員長 中心市街地と郊外それぞれの立場から記載するのであれば、中心市街地の生活に欠かせない郊外の自然環境の保全を図る、あるいは農山村を維持するために中心市街地の発展が必要という表現にしてもよいと思われる。

宇野委員 主要課題2の課題5について、「様々な課題」という表現は抽象的であり、具体的な課題を記載してはどうか。

松本委員長 上位計画のなかで幅広く位置付けておかなければ、今後施策を検討する際に支障が出るため記載しておきたいという行政の狙いがある。「新技術の導入」程度の分かりやすい表現に留めてもよいかもしれない。

鶴田委員 「様々な課題」の前に、持続可能な居住環境の維持を図るためといった表現を追加してはどうか。

松本委員長 持続可能なという言葉は居住環境だけでなく、森林の荒廃等にも関係する利便性の高い言葉である。

事務局 意見を参考に検討します。

宇野委員 課題4の小さな拠点について、どのような機能を有する拠点を形成するのか記載してはどうか。

鶴田委員 この小さな拠点とは、国土交通省が示しているものであるならば、説明等が必要ではないか。

松本委員長 一般論として小さな拠点という言葉を使用しているため、主要課題の中で説明等は必要ないと思われる。

事務局 資料6の将来都市構造の中で国交省が示す小さな拠点も参考にしながら、市独自で位置づけています。

松本委員長 国交省が事業として示す小さな拠点ではなく、中山間地域等に小規模な拠点を設置し居住環境の維持を図るという意味合いである。

片桐委員 具体的にはどのような施設を小さな拠点に位置付けるのか。

事務局 資料6に記載していますが、本都市マスでは小さな拠点は明示せず、地元住民が主体となって検討していただくこととしています。

松本委員長 一般名称として問題ないと思うがあえて表現を変更するのであれば、「小さな魅力のある拠点」等の表現が考えられる。

事務局 資料6で本都市マスにおける小さな拠点の定義について記載しています。

鶴田委員 市街化調整区域や都市計画区域外で施策を検討する際に、制度を利用するため小さ

	な拠点を位置付けていると思うが、国交省が示す小さな拠点と混乱するため、表現を変更してはどうか。
松本委員長	制度利用と結びつける必要はない。岡崎市独自の定義に基づいた小さな拠点であるが、混乱を招くようであれば説明の追加等表現を検討する必要がある。
片桐委員	中山間地域等に住まわれている市民の生活環境を維持するための都市部への交通ネットワークの確保が目的であれば、拠点は必要ないのではないかと。
事務局	診療所や市の施設などがある場所を小さな拠点として位置付けるため、拠点は必要だと考えています。
松本委員長	中山間地域等に住まわれている市民の生活環境を支える施設を維持していくためにも、小さな拠点として位置付けている。
片桐委員	国交省が示す小さな拠点とは具体的にどのようなものか。
松本委員長	主に道の駅が挙げられる。
片桐委員	対象となる施設が違うのであれば、国交省と区別するためにも表現を変えたほうが良いのではないかと。
松本委員長	国交省が示す小さな拠点に囚われる必要はなく、誰が見てもイメージが湧く名称であることが重要であるため、このままでよいと思われる。
齊藤委員	主要課題3の課題1について、今後増加が見込まれる外国人についても記載してはどうか。
事務局	資料1のNO.3の意見対応に基づき、誰もがといった表現で子育て世代や高齢者だけでなく、外国人も含め幅広く対応する表現にしています。
齊藤委員	外国人の居住環境についても明記することで、岡崎市が外国人にとっても住みよい街であるとアピールすることができると思われる。
松本委員長	今後の岡崎市の産業等を支えるうえでも外国人の居住は重要であると思われる。高齢社会を高齢者に直し、子育て世代や高齢者の後に外国人も明記してはどうか。
事務局	意見のとおり修正します。

(3) 企業アンケート

鶴田委員	資料1のNO.20について、企業の立地理由はどの部分に反映しているのか。
松本委員長	資料4-1の問8で現在の環境について、問9で課題についての設問があり変更しなくてもよいと思われる。問15で資料4-2の問5のような項目の追加を検討してもよいかもしれない。また、近年創業したか古くから操業しているかによって立地理由は異なるとと思われる。
宇野委員	企業で立地理由はさまざまであるため、選択肢を増やす必要があると思われる。
松本委員長	立地条件に関しては、工業センサス等の項目である程度網羅されている。岡崎市が補助金等の施策を実施しているのであれば、その項目も追加する。
事務局	商工部門で実施しているため、補助や税金の優遇等についての設問を追加します。
齊藤委員	資料4-1の問11について、通勤手段に送迎バスも追加してはどうか。
事務局	意見のとおり追加します。

伊藤委員	資料 4-1 の問 15 で、企業によって岡崎市で事業を行うメリットはさまざまであると思われるため、自由記述の設問にしてはどうか。
松本委員長	記述式の場合、回答数が減少する傾向がある。選択肢は増やしたほうがいいが、それ以外はその他で回答していただくことでどうか。
伊藤委員	複数回答にしているが、優先順位をつけなければ回答数のみで項目の重要度を判断してしまうため、各企業で重要なメリットが見えてこない可能性がある。
松本委員長	回答数で各業態における重要なメリットを抽出できると思われるが、より詳細な分析を行うために優先順位を回答欄に設けるか検討していただく。また、選択肢の追加についても検討していただく。
事務局	意見を参考に検討します。
宇野委員	資料 4-1 の問 24 で分かりやすいように「西暦」を記載してはどうか。
事務局	意見を参考に修正します。
天野委員	資料 4-1 の問 2 について、多い順に選択するのであれば順位が分かる回答欄を設ける必要があるのではないか。
事務局	意見を参考に検討します。

(4) 都市づくりの目標 (案)

松本委員長	資料 3 の主要課題で出た意見をこの資料 5 の目標 (案) にも反映していただく。
事務局	目標 (案) にも反映します。
伊藤委員	主要課題 1 で広域的ネットワークの活用について触れているが、都市像 1 では具体的な取り組みが企業誘致のみとなっているため、リニアインパクトを生かすための駅機能の強化等他の具体的な取り組みを追加してはどうか。
事務局	意見を参考に検討します。
松本委員長	都市像 3 で観光産業に向けた目標がないのではないか。また、資料 3 で意見にあったグローバル化も視野に入れた目標設定も検討していただきたい。
事務局	意見を参考に検討します。
鶴田委員	都市像 2 の目標 1 について、都心ゾーンにのみ焦点を当てているように見えるため、表現を変えたほうが良いのではないか。
事務局	資料 6 の将来都市構造の設定で、現行の都市マスを参考に都心ゾーンを位置付けており、立地適正化計画でも居住誘導区域に都心ゾーンを位置付けているため、目標の中でも記載しています。
松本委員長	都心ゾーンという言葉を使うのであれば脚注等での説明が必要だと思われる。また、郊外に住まわれている市民への対応についても記載していただきたい。
事務局	注釈等での説明について検討します。郊外に住まわれている市民への対応は目標 3 で記載しています。
鶴田委員	目標 3 で、地域コミュニティの維持は郊外のみでなく中心市街地でも行うべきものではないのか。
事務局	目標 2 で、市全域を対象とした地域コミュニティの活性化について記載していま

す。

松本委員長 目標2は公共空間を活用した地域コミュニティについて記載しており、それ以外の地域コミュニティの内容が抜けている。また、郊外や中山間地域に住まわれている市民の居住環境を地域コミュニティという言葉で表現しているが、都心部でも地域コミュニティの維持は必要であるため、表現を検討していただきたい。加えて、既存ストックの活用は主に都心部で行われており、郊外においては祭りの担い手の不足などソフト的な地域コミュニティの維持についても検討しなければならない。

事務局 目標3の表現について検討します。

天野委員 目標2で、市民に主体的に活動していただくための動機付けが弱いと思われる。市民自らが地域課題を認識し、課題解決を行うというプロセスを経て持続可能なまちづくりを進めるといった記載があるとよいのではないかと。

松本委員長 重要な考え方、特に郊外においてはそのようなコミュニティの動きが望まれると思う。

事務局 意見を参考に検討します。

鶴田委員 都市像5の目標2について、土地利用はハード対策ではないのか。

松本委員長 土地利用は規制であるためソフト対策である。しかし、文章構成に誤りがあるため、ハード対策とソフト対策、土地利用の3本建ての文章構成にしてはどうか。

事務局 意見を参考に修正します。

松本委員長 都市づくりの目標について、今後議論する機会はあるのか。

事務局 次回の策定委員会では、意見を反映した都市づくりの目標をもとに検討した全体構想について議論していただくため、今回いただいた意見の対応についても提示します。

(5) 将来都市構造について

大野委員 P.1の青文字とアンダーバーで協調している部分は、会議資料として議論すべき箇所を協調しているのか。

事務局 分かりやすい会議資料とするため、文章やキーワードを強調しています。実際の都市マスには、黒字で統一する予定です。

大野委員 2. 将来的な都市構造の考え方について、名古屋三河道路は現状地域高規格道路の候補路線に留まっており、将来的な都市構造の考え方に含めてよいのか改めて検討していただきたい。

松本委員長 具体的に名古屋三河道路と記載するのか、国際ゲートウェイとの連携として位置付けるのか表現を検討していただきたい。

事務局 意見を参考に検討します。

石井委員 産業機能重視型都市構造と記載しているが、産業機能を重視した都市構造を目指すのか。

松本委員長 産業機能重視型都市構造を目指す。説明で「住・商・工のバランスがとれた」と記載しているため岡崎市の都市機能配置とも整合している。

石井委員 都市マスが行政だけでなく市民も参考とする計画であるのならば、専門用語等については脚注等により説明を追加していただきたい。

事務局 都市マスは行政だけが使うものではなく、市民の皆様にも理解していただかなければならないものであるため、用語の定義の作成も含めて分かりやすい表現となるよう検討します。

石井委員 3. 将来都市構造の設定について、広域観光交流拠点はどのような基準で設定したのか。また、交通拠点に該当する箇所は具体的にはどのような駅か。

事務局 広域観光交流拠点は現行の都市マスに基づき定義しています。現行の都市マスでは本宿駅のみですが、本計画では新たに3か所追加しています。

石井委員 大樹寺は含めなくてよいのか。

事務局 観光入り込み客数等に基づき該当箇所を設定しているため、大樹寺は入り込み客数の結果から含みません。また、交通拠点は、他の拠点に含まれていない鉄道駅全てを設定します。

石井委員 他の拠点では具体的な該当箇所を明記しているため、交通拠点についても該当箇所を明記してはどうか。

事務局 意見を参考に検討します。

天野委員 2. 将来的な都市構造の考え方について、岡崎市の重要な都市構造として住・商・工だけでなく農・林・水についても記載してはどうか。

事務局 1つ目の考え方の中で、意見を参考に検討します。土地利用では、森林環境ゾーン等で農・林・水について記載しています。

鶴田委員 3つ目の考え方について、表題では郊外部・集落エリアを対象としているが、内容部分では居住誘導区域について記載されており、表題と内容を整合させる必要があるのではないか。

事務局 意見を参考に表題を検討します。

鶴田委員 3つ目の考え方の1行目に記載している「各地域にあった拠点の形成」は、「各地域に見合った拠点の形成」ではないか。

事務局 意見を参考に修正します。

伊藤委員 新産業ゾーンについて、名古屋三河道路沿線等のエリアを現段階で明確に位置付けてよいのか。新東名や阿知和のスマート IC 等より現実的な地域を新産業ゾーンとして位置付けてはどうか。また、緑の共生軸は具体的にどのようなものなのか。

事務局 市街地ゾーンと自然環境ゾーンの境界として緑の共生軸を設定しており、大きな都市構造の考え方として位置付けています。

伊藤委員 境界を分離するために施策等を実施するのか。

事務局 施策等の実施予定はないが、積極的な市街地の拡大等を行わないゾーンという位置付けとなっています。

片桐委員 緑の共生軸の定義にある緑地・公園等は、どこまで含まれているのか。

事務局 東名高速の北側にある天神山緑地や東公園など大きな緑地・公園が含まれています。

片桐委員	人と自然が共生する空間と定義しているが、人工的な緑地・公園等を対象としており、岡崎市の特徴である三河山間地等の自然物については含まれていないように感じる。緑の共生軸と位置付けるのであれば自然物も含めた表現にしてはどうか。
松本委員長	緑の共生軸が、定義に基づいて設定されているのか。又は軸として位置付けることができるのか検討していただく。
事務局 大野委員	意見を参考に検討します。 広域的な都市構造のイメージ図における名古屋三河道路が、静岡・東京まで続いていくように見えるため、図の配置を修正していただきたい。また、始点・終点の位置についても修正していただきたい。
事務局	意見を参考に修正します。

3. 閉会

事務局	長時間ありがとうございました。次回の策定委員会については、後日改めてご連絡させていただきます。それでは、これにて第2回策定委員会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。
-----	--

以上